

年間第 2 3 主日の説教

金 大烈 神父 2010 年 9 月 5 日 (日)

《すべての源は神様》

主の平和！

イエス様は敵さえ愛さなければならぬとおっしゃいました。皆様、この言葉をご存知ですよね。しかし、今日の福音では何とおっしゃっていますか？ 私たちが一番愛さなければならぬ家族、一番愛している存在である家族を憎まなければ自分の弟子にはなれないと、常識では考えられないことをおっしゃっています。どういう意味でしょうか？ 敵さえ愛さなければとおっしゃったのに、なぜ自分の家族を憎まなければならぬとおっしゃったのでしょうか？

簡単に申し上げますと、あなたが愛するもの、あなたの愛着、執着、こだわるすべてのもの、あなたの生と死、おもしろさ、虚しさなどすべての感情の働き、関わりは神様であることをいつも忘れてはいけないということです。皆様が一番愛しているもの、こだわっているものは何でしょうか？ それぞれいろいろ違いがあるかもしれませんが、とにかく今日は、たとえとして家族という存在を話されました。あなたが家族を憎まなければということは、あなたが愛するその家族はどこからきているかをはっきりわかってほしいという意味です。結局すべてのことの決定権は神様が持っているおっしゃいます。そういう意味で、何の喜ぶことがあっても、どれだけがっかりすることがあっても、そこにはいつも神様の御旨があることを意識して求めなければならぬことをおっしゃっています。

皆様、今、何に集中しているのでしょうか？ その集中しているものが成功すればそれはなんという幸いといえるのでしょうか。しかし、その決定権は誰が持っているのでしょうか。それを意識しなさいということです。結局私たちは神様に、イエス様に付いて行くと言いながら、頭が中心が欲だったら、それは弟子として相応しくないことだとはっきりおっしゃっています。「自分の十字架を担って付いて来なさい」と仰っています。しかし誰でも十字架を負いたくないです。しかしこの十字架に一番素晴らしい宝物が隠れている、神様から与えられているものがあるのを悟って下さい、というイエスさまのメッセージです。

皆様よく考えてみましょう。私たちは何のために生きているのでしょうか？ 何のために信仰の生活をしているのでしょうか？ なぜこのようにせつかくの日曜日、休みなのにこのように教会に来てここに座っているのでしょうか？ それは全ての源である神様に委ねるためです。司祭である私も時々神様の御旨が納得できません。「なぜこういうことがおこったのか？」とわからないことがあります。たまには腹が立ちます。私たちには理解できないことなのでしょう。今日の第一朗読で読まれた知恵の書(9・13 - 18)に書いてありますよね。「神の計画を知りうる者がいるのでしょうか。主の御旨を悟りうる者がいるのでしょうか。死すべき人間の考えは浅はかで、私たちの思いは不確かです。」そういう告白が私たちの口から自然に出るなら、その人はイエス様の御旨に従っているしるしを表していることだ

と思います。皆様、納得できないことはたくさんあります。小さい事からはじめ大きい事まで、私たちはいろいろな面で倒れます、転びます。しかし、すべてのことの力は神様から頂くことを意識しましょう。皆様が愛する家族さえ神様が守って下さらなかつたら崩れてしまうことを意識するのが信仰者の道でしょう。

愛する人の死はどのように理解したらよいのでしょうか。それも私たちの頭では納得できないところがあります。しかし、私たち信者は神様がその人に一番ふさわしい、素晴らしい道として選んで下さったと確信しなければならないと思います。

皆様、家族を最善を尽して愛して下さい。それが、今日家族を憎まなければならないとおっしゃったイエス様の言葉と全く一致されることだと私は信じます。

そして家族を愛しているなら祈ってください。祈りなしに家族を愛しているというのは嘘です。祈っているなら、問題があっても解決する知恵が与えられます。困難があっても力を得ることができます。間違いがあればやり直しができます。

ありがとうございました。